

今回は、スーパーハイスクールセッション（SSS）の報告です。

◇ スーパーハイスクールセッションに参加しました。

場 所： 岐阜大学 全学共通教育講義棟 commons 1A・2B
全学共通教育講義棟 105 教室

対 象： 県内スーパーハイスクールの代表生徒

目 的： 生徒同士の連携を促進することにより、互いの研究成果をより一層発展させること

テーマ： 「岐阜の里山を活用して、地域の課題を解決しよう」

◇ 事業の詳細

日 程： 第1回 令和3年7月25日（日） 10:00～16:00

県政説明 テーマ：「岐阜県の特徴と課題」

グループワーク①

岐阜大学生との交流講義

講義 テーマ：「里山がもつ可能性と現代社会との接点」

グループワーク②

第2回 令和3年10月23日（土） 10:00～16:00

グループワーク①②（宿題の共有、課題解決方法を考える）

中間発表

グループワーク③④（課題解決方法の提案に向けて）

第3回 令和3年12月12日（日） 10:00～16:00

グループワーク：成果発表会に向けた準備

成果発表会

岐阜大学地域協学センターと県教育委員会が主催となり、県立のスーパーハイスクール17校の生徒の意見交換や交流の場として設定されました。7月下旬に第1回を行い、県政説明として「岐阜県の特徴と課題」について、岐阜大学の先生から「里山がもつ可能性と現代社会との接点」について講演を聞きました。その後は、参加校に関係なくグループを作り、「岐阜の里山を活用して、地域の課題を解決しよう」のテーマに対して探究活動を行っていきました。県立学校で利用推進が行われていたICT機器やその環境を有効に使い、コロナ禍であっても他校の生徒と積極的に情報交換を行って探究を進めていきました。10月に中間発表を行い、今回12月に研究成果を発表しました。

探究においては、まず、発表を正しく伝えるために、「発表者の考える里山とは何か」を定義してきました。自分たちの考える里山、その課題、その解決案・改善案、ほかの地域で行った場合の結果、それによる新たな課題やその対応などを細かに考え、意見交換を活発に行い、発表となりました。



◇ 参加した生徒の感想

■私たちのチームは、岐阜県の深刻な問題の一つである若者の県外流出に焦点を当て、この問題に対して里山を里山本来の利点を活かしつつ、若者が親しみやすい形にカスタマイズし、利用していくことを提案しました。グラフや資料を多く提示し、全てのことを根拠づけて話すのは大変だったけれど聞いていただいた方々からも好評を頂いたので嬉しかったです。また、改善出来る点も多く見つかったので勉強になりました。

他の高校の生徒と学年を越えて活動できるのはなかなか出来ないことだと思うので経験できてよかったです。今回は岐阜県の問題解決を目指しましたが、どの都道府県にも共通する問題は多くあると思うので高校生が県政に少しでも関わって活躍出来るようになると思いました。



■私は、関高校のFRH活動で、地域をよりよくするための課題解決に向けて「考える」ことの楽しさを知りました、そんな時、SSSの募集案内を見ました。他の学校の人とグループになって、一緒に岐阜に関する課題研究ができると知り、ぜひやってみたくわくわくしながら申し込みました。

2021年の今回のテーマは、「岐阜の里山を活用して、地域の課題を解決する」ことでした。初めにそれを聞いた時には、2つを結びつけるのが難しそうに感じました。しかし、里山についての講義やグループでの議論から、岐阜の課題は人口流出であると考え「岐阜を知ろう★プロジェクト」を提案しました。これは、小学生をターゲットにしています。若いころから郷土教育を行うことによって市民としてのプライドを持つことができると考えました。それを行う先生は、地元の職人さんや、知識豊富なお年寄りなど、多種多様にわたります。さらに、地域のパンフレットを作ってもらいます。それを県外の駅など人が多いところに置いたり、岐阜県内で交流しあったりできます。



私が所属したDグループは初めて出会うメンバーでしたが、すぐに打ち解けて、みんなで議論して進めていくのがとても刺激的な体験でした。全体では10グループあり、どれも独創的なアイデアで課題解決に向けた発表をしており、学ぶことがたくさんありました。特に勉強になったのは、新しいことを始めるのではなく、今あるものを活性化させたい」とう発表です。私は、「とにかく新しいものを提案しなければ」という思考でいましたが、それではSDGsの「つくる責任 つかう責任」を達成できないだろうし、今岐阜にある多くの魅力がないがしろにしていることであり、結局岐阜を見つめられていないのだと気が付きました。

3日間にわたって、私はSSSで多くの貴重な体験をしました。今回参加したことで考える力をさらに磨くことができたので、これをこれからの日常や社会に出たときにも生かしたいと思います。

◇ 参加校の詳細

県立のスーパーハイスクール 17 校から、45 名の生徒が参加しました。参加校は以下の通りです。

事業名	趣旨	指定校
地域共創フラッグシップ ハイスクール (県指定)	地域の魅力を知り、課題を発見・解決することで、地域の将来を担う当事者としての意識を向上させるとともに、グローバル化に対応するコミュニケーション能力や課題解決力等の国際的素養を身に付け、地域創生などの様々な分野で活躍できるリーダーを育成する。	岐阜北高等学校 長良高等学校 加納高等学校 岐阜商業高等学校 大垣北高等学校 関高等学校 可児高等学校 多治見北高等学校 斐太高等学校
スーパーサイエンス ハイスクール (国指定)	高等学校における先進的な科学技術、理科・数学教育を通して、生徒の科学的能力及び技能並びに科学的思考力、判断力及び表現力を培い、もって、将来国際的に活躍し得る科学技術人材等の育成を図る。	恵那高等学校
理数教育フラッグシップ ハイスクール (県指定)	探究的な学習のカリキュラムを開発し、その普及を図るとともに、理科や数学を中核とした探究的な学習活動を通して、生徒の科学的能力等を培い、将来の国際的な科学技術関係人材の育成を図る。	岐山高等学校 大垣東高等学校 吉城高等学校 岐阜高等学校 岐阜農林高等学校
スーパー・インクワイアリー ・ハイスクール (県指定)	岐阜県への愛着を深める「ふるさと教育」をさらに充実し、ICTを活用して生徒が教科・科目の枠を超えた課題の解決に必要な情報収集や分析を行う協働的・探究的な学習(STEAM教育)を展開する。	岐阜高等学校 岐阜農林高等学校 恵那高等学校 岐阜各務野高等学校
地域との協働による 高等学校教育改革推進事業 (プロフェッショナル型) (国指定)	専門的な知識・技術を身に付け地域を支える専門的職業人を育成するため、地域の産業界等と連携・協働しながら地域課題の解決等に向けた探究的な学びを専門教科・科目を含めた各教科・科目等の中に位置付け、体系的・系統的に学習するためのカリキュラム開発等を実施する。	岐阜工業高等学校